

事業名	カンボジア王国 障がい者陸上支援事業（文部科学省戦略的二国間スポーツ国際貢献事業【スポーツ・フォー・トゥモロー】プログラム）
事業分類	障がい者支援
支援団体	カンボジア王国 教育・青年・スポーツ省、カンボジアパラリンピック委員会、障がい者陸上連盟
活動理由	<p>カンボジアでは、未だに、障がいは前世で悪いことをしたためと言われることがあり、社会に出ることが難しい障がい者も多い。当会は、毎年12月に開催されるアンコールワット国際ハーフマラソン（AWHM）を通じて、参加者が、障がいがあってもマラソンを介して社会に出ることができるようになるという希望を持てるようになったり、マラソン大会の登録費からチャリティとして義手・義足製作のための寄付をする等の支援をしてきた。AWHMで上位に入賞した障がい者ランナーを、AWHMの姉妹マラソンであるかすみがうらマラソンに招待する等、障がい者がより多くのスポーツに参加できるように機会を提供してきた。</p> <p>また、カンボジアの障がい者陸上連盟と共同で、障がい者の陸上トレーニングへの支援を実施してきたが、選手のトレーニング方法や、コーチの指導方法に関しては、研修等を受けたことがなく、課題を抱えていた。</p> <p>そのため、選手がより効率的に練習できることや、コーチが、選手だけでなく、これから陸上を始めようという障がい者に対しても陸上の面白さや楽しさを教えることができるようになることを目的として、障がい者陸上支援プロジェクトを実施した。</p>
<p><b>本年度の活動概要</b></p> <p>本年度は以下の活動を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>2017年1月30日から2月1日の3日間、日本パラ陸上競技連盟から、三井利仁氏と近藤克之氏を招聘し、障がい者陸上のワークショップを開催した。 <ul style="list-style-type: none"> <li>46名の障がい者選手、新たな競技者、14名のコーチ、13名のアシスタント及びコーディネーター、6名の保護者が参加し、障がい者陸上のトレーニング方法や指導方法について学んだ。</li> </ul> </li> <li>2017年2月17日、24日、3月3日、10日の計4回、障がい者陸上に関する情報交換会としてオープンクラスを開催した。 <ul style="list-style-type: none"> <li>2月17日：ワークショップの振り返り 28選手、コーチ及びパラリンピック委員会関係者が参加</li> <li>2月24日：練習計画について 25選手、コーチ及びパラリンピック委員会関係者が参加</li> <li>3月3日：練習方法の紹介 22選手、コーチ及びパラリンピック委員会関係者が参加。筑波大学学群生3名がそれぞれ、車椅子、立位短距離、立位長距離に分かれ、練習方法を紹介。</li> <li>3月10日：形態・体力測定 45選手、コーチ及びパラリンピック委員会関係者が参加</li> </ul> </li> <li>2017年3月11日、12日の2日間、日本大学の近藤克之講師を招聘し、カンボジア・ナショナル・パラ陸上競技会を開催した。 <ul style="list-style-type: none"> <li>37名の障がい者選手、8名のコーチ、6名のアシスタント、25名のパラリンピック委員会スタッフ、5名の保護者が競技会に参加し、主に短距離及び中距離の障がい者陸上競技を体験した。</li> </ul> </li> </ol> <p><b>特記事項</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2017年1月から3ヶ月間、JICA青年海外協力隊短期派遣として、筑波大学大学院生が2名、2月から1ヶ月間、同大学学群生3名が、障がい者陸上支援のため派遣され、本事業に協力した。</li> </ul>	 <p>パラ・陸上トレーニング・ワークショップ</p>  <p>パラ・陸上競技会</p>  <p>パラ・陸上競技会後の教育・青年・スポーツ省大臣出席の集合写真</p>
<p><b>次年度の実施計画</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2017年2月から開始しているオープンクラスを継続支援しながら、障がい者ランナーや指導者のニーズを把握し、継続的な支援につなげていく。</li> <li>12月のアンコールワット国際ハーフマラソン参加のための支援を継続していく。</li> </ul>	
<p><b>支援・協力団体</b></p> <p>日本スポーツ振興センター、(独法)国際協力機構(JICA)、筑波大学、チャリティディナー、HG飯田クラブ、岡山南ロータリークラブ、吹田中の島チャリティ・ラストラン、(株)日刊スポーツ新聞、エイコースポーツ、かすみがうらマラソン</p>	